荻屋集

四、五、六

836
3
24

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

萩舎集

窓雑部

五

六

836
8
24

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

萩舎集巻五

連水行道

憲部

恋恋

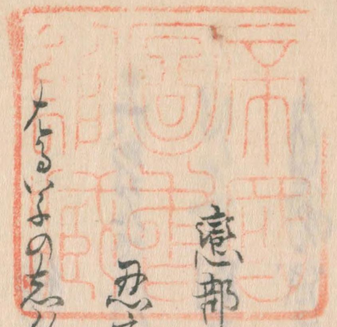
[illegible]

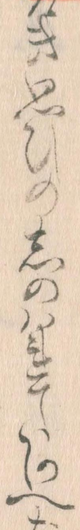
閑恋

[illegible]

見恋

大正
9. 6. 17
請求





国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

初恋

待恋

別恋

後朝恋

喜恋

秋恋

秋夜恋

三の川恋

三の氷恋

三の薄恋

三の木恋

三の紅葉恋

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

萩舎集巻之

雑部

日

月

山

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

富士山

滝

山家

山家晴

山家杉

山家嵐

田家

ひさのおとふみならつゝたかなくもおどろかれぬ山田もるその

送別

こゝも又たびならなくにいかならむいつまでかつゞけむ旅のまちみ

月よき夜
遠行人の別に

うつるきハいのち思ひのますのみかけてまちますらむ人のかけを

あすふかなる月なりせはるひのゆくやかへるの月をみなまし

やまひつゝそこにさきまで遠ゆく人をおくる

きのくるの里ゆくたびをも遠くさと三人はたかにかなる道

遠国へまかる人に餞やるとて

いまにみよ我は風のたよりをまちぬべしきみをおもふこゝろあふまで

遠国へまかりける人の夏ハかならすかへるへきよしいひけれは

やよひのすゑつかたにいひやりける

なつころも立かへらむと云ちきりてやとしもおなしまなきをまちまし

羇旅

はれぬるもゆふかけたびねはあきのよのしくれつゝたゝなかはまれつゝ

春旅

花のかたびねをゆふいとやすらかにおなしく雲とぬる

ふるさとのたびねかなしてうしよりもまたるゝハたのまぬものゆゑ

秋旅

あふるきかりのこゑたえてはなのみをまちゆくこゝろやまかなる

おひ衣にはなしくるかなきはまき秋の世はすき世流の志のはら
ことゝ思へとなかにしきうゑひゆく人のこゝろのこゝろの世
をしたちゆふいつゝのちてこゝろなきまゝおひはなかるゝ秋ゝられぬる
こゝろはしをしらぬふはまらいてゝのと志のふの山にしたちしたりけり
こゝろまゝ秋にちかのこゝろのこゝろこゝろしたひのこゝろにしたひくるゝ

旅宿愛

いねてこゝろにしたりしおもきおひなからこゝやとの夜ハあまたこひたつ
ゆゑのうちにかよなかよこゝろにはすまいとおきに旅ねなりけり
こゝろはとのゆめにみえつゝあやかれおひのこゝろそかたてまとなき

羇中衣

こゝろにまはしいのかをこゝろ秋志をしまつる旅の衣にしたりしかしかし

羇中雁

おひはしてつる秋にしつるかりのこゝろ雁とおこらずましけれ
なかり月たかし人の旅のやとゝにかよこゝろしてかりけるゝ
はらてゝものおもふるこの秋のなかさひはよいのにしひしれ

述懷

つき花をしたつるこゝろにかからしをなくこゝろにとの雲のまゝへ入ぬ

述心徒

ひとはよしいのにゆくさしいのをとのもしなるなをこゝみにたらへし

秋述懷

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

王昭君

ゆく花のあかぬなごりはなけれども君が行方のはつかしきかな

かゝみかはせるよつの海よりやほそからむ思はぬかたへ身をふけるには

なかなかにかるかやのみだれよつの海のたえなばかゝるうきめやはみん

卞和

いはひたまのこゝろはちゝのひかりてうたかたやなる時は来ざりけり

藺相如

いやなれ風にすまさぬこころかあくがるゝ人をなびきぬるかな

屈原

たらなみにみかたつもゆくへしらずなるやちよはいかになりにけるかな

七月ばかり人の文のおこせたりければ

なにはなるあさきに似たる風にあきのあはれは人のおもひしらるゝ

九月ばかり文のおこせしにかへしてやる

たそかれの空にしらぬはなけれどもなかなかにうつろふものはいつの秋

あきの月にあすの夜しらぬ人の花とて人の心のみの秋

よみてつかはしける

秋なくふけきやかに月の名をくもらすものとてはいふらむ

たつ所人の文のおこせたること

ちよとせ一たのみしひとならなくにせめてかたちは思ひのなきや

侍従のもとにおもかけてぬきつゝすめる

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24
ガラス使用

ちとせもしおまひおきて我が立ちの人今かなしれ
また[illegible]日たやすみ[illegible]祖母三人を志め
ひて
[illegible]
冬の賀
[illegible]
おりたの九十賀
[illegible]
同賀花を
[illegible]

おりて言杖祝
[illegible]
人の賀に言子日還暦といふこと我
[illegible]
おりてこゝろ
[illegible]
言子日祝
[illegible]
[illegible]

七十賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物名

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

今様

閑居鶯

ひとりこひまぬ日ことにそのふの行きふしなまてなくこゑ
ひまぬけあはよひの友とまるまでたのしなれ

一月をうんる

つきのひとりのはやれさりあるふとにちはなりてやまとのから
のこゑみつくまとしよみあふこそらのはなれ

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

父の忌のたらのまへる郡上名勝ぶくしよそへつるかも

宮瀬橋　橋ゟ山岸叙社あり

かくしてたえせぬるゝ無ちたつるき神のまもりなるの瀬のたり

魚梁

瀬をやとおもひるゝのゆへやなのうへにたゝしものちるとてこゝる

畑佐銅山

けのゆへきこゝにたゝしてくるしてこゝろの花のほきいてぬ君さ

小野八幡社　郡上郡の信守なり

いまたゝ三つ神の志つまるゝにかなきハかきハかきハかたそしとて思ふ

北堅神居彰石

わきはすつてへむものと此神のことつて石にいはらはまゝ無

糸ひれ

いとなくみなまいはらはなやめの国代のためにしきやいつらむ

乙姫清水

いくよかなれいつらすまゝ志ミつのそのおもひめのおとたえせて

笹坂

おのにやもたえてけしはなきまちハいはそくれの雑なりして

弓瀧寺　同瀧

いとしく社ハけしきし山寺ハもあくりその里の志をこのまゝ見て

けらしぬるちひろの布の七たきにつこしいはぬ見てこそうる

春駒　少女の口ばをきまるをいふ

うしひまのこゑよりけきにはけをきめ其つ里のまつゆゆゆ

宝殿瀧

いたりはけしきにはてめなせていろいのはらぬたきの志らいと

すまひめのけらしかにつよをへてしたえまくちせぬ布や　このゝ

屋崎宗祇水

もまひにむすしのひくのこゝろをもしてしらるまゝ志ミつ

同處雲深樓

志らすまゝかに樓をまゝてめくなつれしなるこのまゝはひなりに無

同處陸

いえばそふたるの志ことつかうち雪まで拝しちらさんかたつなくらむ

東殿山　東家の城址古戦場なり

こゝのふるつゝこのおとかたえぬまゝ落ちいゆりのかなかはらくなり

いまも狩さくらるたゝことえぬなりけれ

牧村桜

ふ　毋のかをおくらせハやまけしらたゝ志らしてやまさまし

おかやの渕　謡うし

からき世かたつゝのつなのたつきにていたるれやまをやうけいのこし

猪更雪

この世ゆいこゝゆれの志らしらかへまゆふいゆはやこれなやむらすゝ

きけいらきのちのむゆの思ふとち五人ふ人して梅かれ

とのしれるをやしのこれ

たまから梅のけれるゆえて

かをのこやなりとふ志めてかへらましもることかきうめのはやしら

桜を

うちハふるやかなれのいとうこる人のことゆふの花をはりせてしかれ

梅のたやしき桜たてゆ

ちるいふをぬきてこめまいゆをやれのいとをて梅うゑまし入会

花ゆる山のふりとふ水なりれこと

のしかふしなるゝものゝ志のれかたをうつしを

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

おとなし川にて

いつのも志ほかたなるまでのとんはけれは志ハこゝろにはなしのハの

田中に捨てゝ

おやま田におりたるたつハ三人の代のおのつからなるまろくなりけれ

金漏寺に元信の忌のなるおくるゝ雪の屏風あまれし

北条氏直ぬのよせらましたまつにけり

よろ花にはゆるかたハ忌こゝろみのうつきおのいろくん元ぬる

あまつ山よりあら川ミゆ

かぎすちたれてのおひこゆるれかよんをつるいにらこハのこつ

梅園にて

ひ日もすくらんをかけていはさしいふやこのたもおりハけれとんゆ

志らゆきの雪に心ぐるまちしてこゝめけてその雨そゝろはむんき

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

ある人のおしへるにしたがある四神相應比

青龍　小川田沢東春木青

けいへなるなりしらしらしかしなりしのまるあをやきの木

朱雀　前低流水南夏火赤

ひとりて世ハ鶴のハのかゝ里相なれてゐつきやうくこなこうれつゝ

白虎　道西秋金白

このまの春もそこらはすゝりしたまれこの所へ水志あきれけのとつしも

玄武　後高山林北冬水黒

おちれてるそこものこつハとれてゐてけすゝきれハのやまゐらし　名

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

荻舍集

長歌上

七

836
8
24

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

春 十四 十五 冬 八 四
合 卅八首

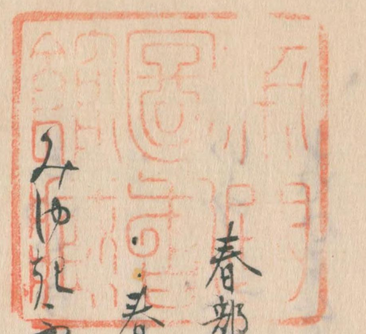
荻舎集巻七

速水行道詠草

春部

春立ける日よめる

みゆ花ゆる冬にしなまハ心しなこのよそるも志らく



[illegible]

つまりは春もあんゆ事ハこれらにハ屋がなしき

のきたにちらの咲いてハ[illegible]

[illegible]

大正 9. 6. 17 求

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

春雪残る

志の是とも春ありあれハいくたく年こゝやらしと思ふ様
たるゆくもゆきハ志らはやらもすらたれてもゆくらす
ゆき様しも志ハ中てまや ひねもすく見元てもうせす
[illegible]
[illegible]
志らたま様志きゐることゝ ふ里つまるこす志のいろ
けく花のおもゝのなかりて ゆきあくうれいて
[illegible]
[illegible]
あらす皆そ見やるあひこそ

いつしかも時るゝぬらし ゆくらへと里ハこのへまゆく
たそかるゆきにあらはあらはあ 小里あ様のうねハひゝけと
られぬへきゆまりもいひらて
ゆふへのいゝなつかくゆふへ
いひらのいゝなつらく ふ里志たるゆきのなりめの
つ見すもあるのれ

反謌

春のうゝ并經要

おちなひくなるひのさ[illegible]

[illegible]

きえのこるこゆきのなくのに

[illegible]

さくらの花こゝにほへそこゆゑさこやこともひなもて

[illegible]

なりけ日かけと

反影し

うちひけ都はひなりおなへてのよき春なりけるのも

[illegible]

ひけのこの事しかそめハ附来ぬくふるまをいてゝ

[illegible]

のこゝろ[illegible]ハなまるもゆゑから

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いましたしまこのたぬも

[illegible]

鶯梅くなく

うつせミの世のことはりや　ふけゆかしきをハあまた
たくひなき
春はまた花あらしつゝ　うらしきのこゝろのゆはしけよ
はかなきの花こそうつりを　咲さの花のかを身に
うらしきのこゝろこそさかへ　よろしくも思ひてはなくうち
来なくるう

又夢

うらしきもかれすなくさく　梅の花なるへきくもちをこそなかめ

詠梅花

いろハせのきへなるなきく　花はしもはなをふくるまて
たるまゝく思しのうちよ雪いちはやく　はるのなほ花さく
花のうはへそのしろはへ　ふしひくらす花はあるハ

うらしきのかえてこそなかく
春のをせのよ

こやしてるそれりあるかも
うらなるそれハも

きはらかなるの九月角田川のほとりにてそれ
関そものはよるの夢のうちにて
こはつはゆき春のあさのうらへなき　ちへの月のしるみ
しらそれのうらうら　なきてきこえつ川花はくそのよ

いつかるらせにしいつかはねとしの事のもゆつことを
つゑつきて
出まなべていかさまとこれをうきらひのなかるゝこつに
あうけてなにきめくらしけしきの夜をこめゆゑを
[illegible]
なつくかをまとうりぬそこ残しものやにかもしみ
花まれてしとこれつとへゝのをこれをてゐこれまなかん
うへなしきつこふ人のるまちのそれ拝ひつらせる
出まの花園

反詞し

拾遺

廿五勺

又の事の夜花園にそのしなる時よりしる
のこかなるはるの日かけしの[illegible]
正り来も元うれ咲むぬと解もよしきのよりしく
[illegible]
すこる川つこうつこひ
いそくるゝ不ともあらせすも花園のあり[illegible]志敬く
ゝのこひくるかをこめゆゑを
[illegible]
たえのこるゆきかこたかり ミやひてもうめこれへ
[illegible]
そのゆまの三代よあるまいれへこもいまこれならぬハ

あまりにはかなきまでは花ちりなきてはなる

櫻花のうた

いはんつちのつゝめるなかにくふりしも志ゝまゝあまりにも
けゝやひんのこのこだまとひのかけ
ひと里ほけはてこしのたに咲いてぬらく
その花のいろをしられハ雪ならはきもさそこちかたく
くれなゐもくれてそこゆる
やすしこうもやすしこうらすやこのたなかしもしられ
う花ことも ここ巳すら元 このたゝ我の花ハ

おいてるもたやくくれぬ
あめつちのつゝめるなかに
花はしはたゝひ里にも
よのなかは花のかやたれまくはき花
夏雪
なくひ花ことにのものあひきれはたゝ花をしてはとなる
花をしまうる
ひのりとハけらにしたゝはへてかちのくにゝ
花をしれ花ハあ里にもたれしこれのさくらに

まはしてこゝろ花になかれいるのちいてゝ秋山まゝりひ
おとこちてにはたゝきとほとあめなき風なきにと
非ゝのミえゝこしたし
やすくしもいと仮ぬすとかひもなく志るしとあらこそ
はるれ日は志つこゝろなくちるゝたゝなゆ

反論

八十ちしの芝ハあまことうつろへる花をこゝすゝ人ハひらぬ
のとりなるこのたるのひとハ行すとゝ公もそらにおのちるらそ

春のちゝ花よおもひつゝ侍る

[illegible]

いとはらふなゝのなけかむ志るしなきものハおもたし

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

夏部

更衣をしむらく

[illegible]

[illegible]

うつせみの世のなからひとしてぬきつるものをしらやはしらぬ

夏歌

ぬきつるこゑにはあらねど花のかげにふかくしのぶるかな

殘花をよめる

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

十三句

又

あらゝかなのつちさへはなてひさうのてるひゝうと知
これつきの月もこれやなかあきのせのみにつよひて
をのうへは松のこすゑゆけりのかるつきのひかり乃
きしくもゆるゝ

教問

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24
ガラス使用

秋部

八日の暁の[illegible]を[illegible]る

あらたまの[illegible]ちかたて[illegible]

いきこゝ[illegible]の吹[illegible]日よりの[illegible]

まちえたるいふせ[illegible]

たる[illegible]の[illegible]

かくらへるおかしつきねたかき[illegible]

あかほしのいつぬらはきえ[illegible]

なまさみのこのしたれはいつ[illegible]

おかふねのあかひ[illegible]たまの[illegible]

まさしき志ぬ花れ

詠園萩

[illegible]秋のゆきかふなりに花りもさらに[illegible]
[illegible]ハしとけハまあまとも秋の花の枝も[illegible]
つゆなから　咲かれへるをおかるゝにてこれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
秋たきの花

野

萩[illegible]

あ[illegible]
志らつゆのよ[illegible]
そのつゆのいやおきてこし[illegible]
その花のいや[illegible]
いゆき萩の花れ

反歌

つゆなからを[illegible]秋の[illegible]萩[illegible]風[illegible]

秋夕

[illegible]

かゝせそよれ　ごゝろるゝつゆきなきふこもあゆるゝ行く
志ろたへの志ろるの袖をかきそへのこ　ことなくおちて
けへもなくまうらぶれしもあれのゆふへハ

反歌

已すまじとおもへこもなる　あきなれてそころかなしも秋のゆふへを

聖分をよめる

いはきけまハ多し　けの花のさまにきひ　さけけ
うるはくふれしてれハ
あらしにハ置きたゝすみゆふへにハ花をかゝりけれ

きぬにまつとにかをつとそいはきのにしてぬるものは
[illegible]　おもはしまるゆちまさい
ふきはある　世にきの風を
志の花ハ見るもち里のひ　志の花ハつちにをまふし
いはましひのいろとしこそ　ひけのさまにはあらけ
つゝのれまにうつろへるもくけの花ハも　花のいろのまゝ
[illegible]

反歌

[illegible]ハ多し　けの花ハのよきにち里にはるかを

八月十五夜月をこてよこなる

いつまあきぬ秋のなかつき

うつせみの

こゑおしむらむおもひをもいつはりと

つきうつろふぬ

又

ひさしせのたゆへゆかしき

秋のこの

うつそこのよのこゝろをそまことゝ

ゆくすゑてうたがふよりもふたつなる

文つゝとものそらにて

ぬれ玉のよるもかたみに

又の年の旦座うた

秋

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

十三勺

ふれおろす双仮のたけりにゆゑ
いねかてしもの思ひをまはをちのくや ふるのけゆくと
あましのも衣うつら雲おゆさえて松にも
ゆくふの悲しけ

反哥

たましこの松むの衣志て古ていをねぬひをおろうの仮む
楊のもとちたる様ゑそよこゑる

九勺

うちなひく春のあしさふ志かむ世ゆけかえてこし
あしきのやまへのけてらしつ
[illegible]

除ク

あかまにの秋さハもまきもとち志ふ

反詞

この世こゝる人まれなる秋山のけしらのもとちはれなるかな

秋をてし雲哥

なつるて秋けゆくれハふく風ちけしこゝ
あくすしちかなしの仕ものへ咲く花をむくつみ
ひねもたにゆくの里ふらしつ
[illegible]
[illegible]

卅一勺

又歌

又歌

秋やまのしたゆくみづもいろづきぬ
こやまごとをいかにこたへん

八月十五夜に

つきかげのあかきこよひをたぐへつゝ
月よやあらぬ月もこそみれ

この秋のそらのうけそ

冬歌

雪

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

836
8
24

荻舎集

長歌下

八

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』 請求記号 836-24

ガラス使用

荻舎集巻八

速水行道詠草

雜部

花園ともの心なる時

いつまでまれるいつ生あまてたれあひも雪のたのしさも

るのしらなき角田にのなるつゝまちのをたてゝりに

ところ元々つゝ生るそのちいちもやきはかはらなり

をゆしの木ふけの花のなつゝのく咲まかへまハ

春をたてて秋をこゝろまるやひをの

大正 9. 6. 17 購求

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

一一

一一

國府屋のほとりにて

ひのくまのいほりぬやうなまいりめのこ志らるまひし
まんらきの神の三代にしたしふまきまこ
あらんせる志らんへらをまつるへきいさのおんみと
おかきことのまけのまゐし　あゆふねきまかちあきぬき
あけひらきにたいつふはまゐこうれをしみ
ふるいふのほまたてさいひおさらひこれかちこ事を
なくふなきたてひなるにあつきたちかりおひぬれ
はちの世のかゝるにまれる此やまのそのふるまゐし
まうらかなしも
こゝにのほまなる所大きな所をこゝみまゐてまめる

いけたらのこつ不のこんたまあまきらの神のこまいとの
この人子いなけまゐまゐゆかつゝみこゝのおかきみの
つゝの姉子のいや国しくいめのこ志らるまふと
をまゐ国を始めたまふと
おかきこゝのみのたまゐまゐ
こゝつくりおたしまゐ志ゐ已しなるゐひらのこゝみ
ゐくひなくならひなけまゐこゝしまゐ
よろつ代まうこゝのぬこゝとしきくのめめつちのなく
志らんるこゝのみのたかきを志つてまきいやまゐ

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24
ガラス使用

たゞくさのはゝ[illegible]まて志しをのいよひをつゝ[illegible]
まとのかしこけ

夕雨

春花のけの元まゝぬるをしきの大宮所みまとゐのぬる

春の旅

[illegible]
くゆまくらたひねなからき
[illegible]
[illegible]

[illegible]
いつらまうつるひぬ[illegible]
志はすたをやとてのけれ[illegible]

夏のくひ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

むすかむとゆしほてかはれど　やまのけふりもたえにけり
世をいとふ人のたつきをしらねばや　あまのたつさしむなきて
やくしほもぬるまもまくらぬけふの山の中のうらく
こひしのわたりしも　えしけのかりくるあめ

秋の旅

はらそのあきにかりきもみちはまくら旅かはあれは
ふくかぜちいきまいなかたに　みなものいとよもそちはち
さしのくものへとしはものはいちきらしうきかくせる
ゆくのそらをけふのはかなきもしらしなつる
ぬるるたまの夜もやすからず
あるさとにおもひぞきて　てるつきのかけもいのちまでき

なくむしのこゑにあはれをそふる　ころもの袖のうらぬれぬ
へ　秋のかしはちく

遣唐使を送るに進たてまつる哥

あかつきのやゆきのあかきこのあらしはゆきもそ
まきちらをのゆくらふとれちもちみのたなはけそなに
うなはらのかしはきぬるそしつれはしのみのこひつかつ
はらはなくきしはやらなゆかしもしつれのあらし
いかせちしのやくつるらしあまの秋のときたちなし
つゝみなくいちきいちかくもあやしたなおきこまへ
うへまこともをしかもはなりてこそ

反詞

おかぶきこのこまともちてしまたらをのいてうだひハつこいひらめや
おかぶきの神のこゝろとおきしふる祝のあまはにはしれなれは

詠ら歌并雑夢

いかきつしまやまとのくにはて
かこかからいとゝもをしくくにてらくいとゝもあけくて
いすへゆつこへまぬらくつハそのかけハよいのまとも
ゆくはものハおてらあまとゝもゆこやなしことにあれハ

うしこくもみまにとらしてちかやかるひをことすけ
まつろかぬあこうくつゝはきこけのこゝのゝのゝはへ
うふはてめなひけませれハあまくとのむかふすがハこ
おほなこのこゝ侍るうはておかぶきこのこゝつゝのゝや祝
をけまれるこ代のまもりのたひらきくにの志つ見と
かおしへすてゝへ祝ぬらくつゝあものこゝあれ

反夢

おかやへふふ神の世代はゆてゝこしこのまりのあつさらまゆこ

拾遺 廿七勺

頼政主のうたに

ならひこるうちひとましたひらの三世にゆるゆるを

これはこのいのそのきこゝはそうしの三れひとりなる紀元

ひろうちをおこさはかのせたたゞ見るこゝろそこゝ紀

いそしめるおもひそたきたゝれしゆゝの夜ハ

いよ申しるほをこのしこみこなりしなりけり紀元ゝ世にかりミなるしなすす

うちにのうちのゝなりおふこれはしのそのゝハきよく

拾遺 卅一勺

ゆちになるくのも

反歌

いのつさらまゝの世にけていさをまゝをたちうちのゝあれ

長年主のゝうに

いたまゝかるおきの志まひゆ

ゆゝわらゆいてませ見なるまゝのこゝかしこみ

ふねのうへのふをおましけのにはし立旗けゝはゝ

よせきぬるそのけうなミとうちハらひ志つめはしかハ

うなハらのなきぬるこゝ

おゝそらのよきめるなして

さゝ三ゝに立そゝのへまる

久新

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

いつたつのなきぬなのりせんふ雲のうるうちめにあはばらまゝ我

八雲代の不二ハ雲紀の志るしまいとおろそかなりと人のいふを見て

あれたらのこつかのおちすめみまの神のみこ也ゆ

ひのこゝろはあまつ見まつてかれたらの記しつゝのこ代り

まつろはぬひと我はいと奇なる作たへなす国さ志るして

ミやこをしうつしまゝ御

こゝろえあよのひとこれのだぬとしあやへまれハ

志るそへきこうもまれらよはいとはいはまることもあらぬを

人ハ志らずやそ

反歌

はるゝきの神のこいつゝ云あはせぬこ代志らえてたふきあるを

古事記竟宴よ大雀命我なる

おもまゝらたりつのこゝろをすくなを志りしたまひ

はるゝ記のくゝみのこまいとぬらをしはめたまふと

こたりたらはるゝこたまふとうるはすきおかこまいらゆ

たりしりのほれたりしたにはたらにたつるはふ里の

おの〳〵志〳〵大ぬしきをへることはかりまは

反哥

みあらかはの[illegible]しかやうたたこ草のうるほひぬへき[illegible]

秋萩帖をうんてうこんる

ひの[illegible]のやまとのふに〳〵ふこのうるひとちあまとも

ふてはれる人をいはまとのなまうれめをのへいはそこそ

此こちのひ志[illegible]せハ志[illegible]

うつそこの世のひとこれのうハみそしふるくらとすらく

そのふてのいつれのハあまとに

秋も紀のもなのうし紀ハあめつちの神もさしみて

あめうせもこゝろおくらまく

反要

その事いかでいかで無くは志いかもたへなる筆の設なきにはハ
久休麻雑誌を志るしをへてそれのあり書つける
秋つしまやまのみにらひのこゝろ花をまきまくにしと
ゆきをちふ山りるはしまをちきの志らせるくにと
おちたきつゝのしはやりしまをしまあやにとりしみ
うちひきまこやこの人にいまはるゝ人わり
花もむかふのこゝろのまにまゆきいるゝ志つゝ
志のふゝつゝ志はきの不思志のゝ心にかうけ志て
いまの世の時ますんめでいはしへのゝ心をもゆいて

こゝ心あらしふとまゝ
つゝへ来ることは我ものしこまこゝろの
おふたなくこゝ世にもちてゝの犯志をちなきこゝろ
やまり川はたんでのすはしゝ君をしゝ志ぬかあまりゆ
ゆるしつゝ君をひとのもしきのまゝ犯し

祖母の九十賀のをゝもの平の所に我書つらねて
よみなる

先したをしおそのたこの
うみをなまゝ七犯すいしを
うつそこの世のひめくい
別かしゆるはあしこの我ものゝ

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24
ガラス使用

志らつゆのきえうせ[illegible]志らつゆ[illegible]
よひ[illegible]あけ[illegible]
あけ[illegible]
ゆく[illegible]
[illegible]

[illegible]

ちゝ[illegible]
月を[illegible]
志[illegible]
[illegible]

ひ[illegible]
春枝の[illegible]
いや[illegible]
[illegible]

反詞

月花を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

母七年忌

父母を

市川美基　のおろち

あふぐといふ歌を詠ませたまひし十三回忌をもとむらひまつるとて

つねならぬ世とはなきてもそれだにも市のみたまはいかうらうしさぞ

まもるかみもちもてくるとてふきいでしかぜのこころもつきのこころも

そのこみのいろをおもへばかぜもまたそのこころもつきのこころも

そのゆゑをおもへばかぜもまたそのこころもつきのこころも

又詞

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

この哥れのうらおぼえしとてる
ゆくはしもいまとおふしかふちに三つえけし志なおいる
ふきの木のくさしけきいめをあはせてしをけしあまへる
おかきこのこまいとかしこみいへこすれ者もたなしらすて
やまゆかたくはむすかをねうみゆかを三つくかをねや
志なアをなるうはらかなをけそうれなる哥ふらうちはらひ
いちくそつのへまつまる志のまこふこうるのうらこそ
あんのこ紀よまたまるを
まうつひのゆらひやまねハたまつ見つてひけこく
うるなこ我志つんはをてまこなどのうふみなアんこ
たかれくも者ハ紀元ぬれとゆいそしめるあこいくちせすの

廿三ウ

ふつうあこかきに元せすれ志の家の志るのきくの
うくはきをしつくへそのふれの美となのく
なまるきんかも

反歌

角田河のほとりなる古塚のうち
このつかやまみさ川なるつゝみをこふ事なりつゝみを
そきけの世のこゝくはかくかつてゆいひつきくらく
うちひはまこやまをいてあつまちくはまよれ年つ
たのへのつゆときえなし

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

志らぬひ　はとしのうちに乃
ことしとをもちまんのはれ　けくうめのちるをもまくて
はるまき志ることを待てのなしき
志のうちに世をうきものとしるかはあるかなきかは世
やはるものをるかとまくいて　まれまき志　まとにかうしまき
志のまゝにもうちのクルまあふまりからのまかく　志き我
やはまろつ神し志ら世ハ　ふかかんはいろ
あかきみとしらしめていまらめていまのかれつのはくらぬ
のこのかれのいやつ
おくらせるめくこのこのせ　ふかふしくいふせかもつる

かしまろのふをすとまれて月のんのてらせるなして　日のんのかへること
回ふしかふいつのこく春花の　けのこえまゝぬる
まとのかふかけ

反謌

おほやま國のまゝにおほかしの神ていませるいやこうしへに
うつし世のひとのかゝ矣とまかふの神のこゝにそあまませ世ハ
四月十七日舟橋の　弟宮にまうてゝ名る
いはきつしまやまに志まれ仕ハいまへゆきあん世ぬらに
うくらやまの國の志るしにけのくにゝ志つまりいます

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24
ガラス使用

又詠

小花をへだてしあまたのかへしらいえまくほしつゝ
おほやけなる世なかにふれてこれとかし歌をよみそめしふ
うらはにしひけをてぬらしみなかりふねハさそひ
うらやましくかきぬらしおかなるあまつはらしらふを
おきあいのいつをゆきつくつこのおきたれさりしも
いたつはりうちよせる海のなみよりくだりし衣をぬき
なみけりのゆきハ

又哥

なかなきへかちてたゞうちひかへなをしきえたてなまし

彩室

九十句

かしこきみ神のみくにに志らしめしゝをしらいやあらたまる

おかはの九十賀にといへる九十句の歌

いやすみ志ゝわがおほきみの（うみつらつ いつも たふとく）
志きませるそらみつのくにらのひとしゆかしく
ちはやぶるのそらならひてはるくしなとしあらきて
ためしなる國すしらしまはちいやさる神の御代々をし
のぼくも定まるへとはいすゞのねのもとにはしもを
おのづからすくせるなかゝ見つゝとしもつきふらく
さかまくらなるつのこゑはいしみのをあらんとける
まめなれのみとみのことはいとなすれことはおものひとゝ

彩室

九十勺

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用　挟み込み物

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

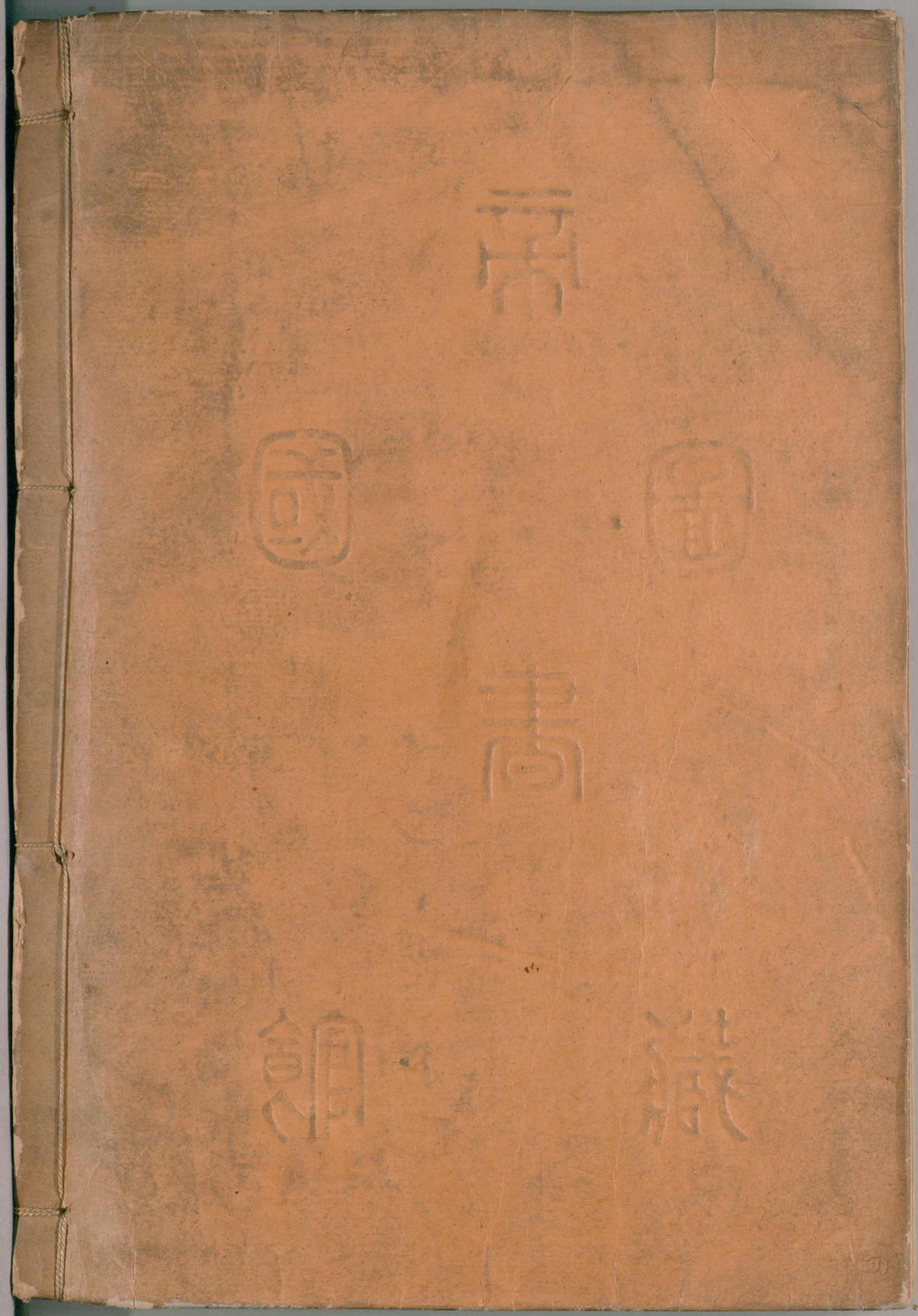
国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用

836
A3
24

国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『荻屋集』　請求記号 836-24

ガラス使用